

令和8年度 品川区立荏原第六中学校 学校経営方針



輝かしい歴史と文化を刻み地域が誇る荏原第六中学校。地域、そして歴代の教職員や学校関係者が築いてきた実績と伝統や文化を基盤として、以下のような学校経営を行う。

- 全職員が学校経営への参画意識を持ち、チーム一丸となった組織的な学校運営を具現化する。
家庭と協働し、地域の教育力を積極的に活用しながら、教育課程の編成・実施・評価・改善(PDC Aサイクル)を循環させ、持続可能で多様な社会の担い手である生徒を育てる。
- 一人ひとりの教職員が保護者や地域の期待を真摯に受け止め意識し、組織の中での自分の役割を自覚しながら個々の資質・能力を高める研鑽に努める。教育目標の達成に向けて、職務を遂行する。

1. 教育目標

自主・自律の精神をふまえ、豊かな心を備え、たくましく生きる生徒の育成を目指して、教育を推進する。

- ・自ら学び、考え挑戦する生徒
- ・礼儀正しく、誠実で思いやりのある生徒
- ・心身ともに健康で、社会に貢献できる生徒

2. 子どもの学びを支える、教職員・保護者の姿

教職員

- 生徒の特性を理解し、惜しみない指導と支援を行い、生徒の可能性を伸ばす。
- 人権感覚を磨き、生徒とともに共感し、互いに尊重し合い、信頼関係を築くとともに、生徒の範となる。
- 授業力の向上に絶えず取り組み、指導と評価の工夫・改善をめざす。
- 公務員としての使命と職責を自覚し、職務に精励し地域に信頼される。

保護者

- 子どものために何が必要かを認識し、基本的な生活習慣と社会のルールやマナーを導き育て、子どもの範となる。
- 意図的に子どもと語る場面や機会を設け、子どもの内面の理解に努める。
- 子どもの成長に必要な支援と環境整備を確実に挙げる。
- 学校を含む関係諸機関と協働し、地域の中で子どもを育てようとする。

3. 目標実現のための視点

(1) 確かな学力の定着

- ・授業規律の徹底
- ・わかりやすい授業のための継続的な指導と学習プロセスの工夫
- ・1人1台情報端末などのICT機器の効果的な授業の充実と情報リテラシーの習得
- ・少人数習熟度別授業(数学・英語)の実践
- ・家庭学習の習慣と定着(自学ノートの活用)
- ・全国学力調査や品川区学力定着度調査の結果分析による授業改善
- ・区派遣事業、各種検定等の奨励

(2) 豊かな心、健やかな身体の育成

- ・基本的な生活習慣、社会規律マナーの定着、情報モラルの育成
- ・道徳、人権教育の充実、SOS教育、レジリエンスの強化
- ・いじめの未然防止(いじめ防止授業)と早期発見と迅速な対応(学校いじめ対策委員会)
- ・体力向上、保健指導、給食指導を柱とした健康教育の実践
- ・ボランティアマインド活動の充実(地域との協働)
- ・教育相談環境の充実(スクールカウンセラー)
- ・不登校対策の推進(校内委員会不登校対策)

(3) 特色ある教育活動、一貫プラン

- ・生徒会、委員会の自治活動の深化(ハートウォーミング六中の推進)
- ・ウェルビーイング教育の推進(市民科の時間)
- ・体験的な活動、探究活動、キャリア教育の充実(市民科の時間)
- ・防災教育の充実
- ・読書習慣の形成
- ・9年間を見通した授業、品川区立学校教育要領の実践
- ・小山小学校と第二延山小学校との共通理解、共生社会に向けての共通実践

(4) コミュニティースクール

- ・校区教育協働委員会との連携拡充(品川CSポートフォリオの活用)
- ・学校支援地域本部による学校支援体制の充実(地域人材の活用)

(5) 特別支援教育

- ・合理的配慮に基づく指導、支援に関する理解啓発(校内委員会特別支援教育)
- ・多様性理解と多文化共生の醸成
- ・関係諸機関との連携(特別支援教室の利用、専門家相談)

(6) 研究と研修

- ・対話的で深い授業の充実
- ・AAR「見通し、行動、振り返り」の授業展開の確立
- ・特別な配慮を要する生徒理解と共通実践

(7) 信頼される学校づくり

- ・安全で安心な環境づくりのための保護者、地域、関係機関との連携強化
- ・学校公開の推進
- ・広報活動の充実(学校ホームページ・連絡メールの活用)
- ・学校危機管理マニュアルの見直しと徹底